

みんなで知ろう! がんのこと

今年で
5周年!!



ジャパンキヤンサーフォーラム 開催報告



現在、日本人の死因の第1位はがんであり、国民の2人に1人が一生で何らかのがんに罹患すると言われていています。しかしながら近年、新薬の開発や医療技術の進歩に伴い、個別化医療も進み、治療成績は向上、がんと共に生活している人も増えています。こうした背景から、がんを「知り」、最新のがん医療や課題を「学ぶ」ことが重要であり、患者・家族・医療者、そして市民が「集う」ことで、勇気や希望が

持てる場とするために、2014年より本フォーラムを開催してきました。

今年も、学会・関連NPO等とも連携し、5大がんをはじめ、希少がんや在宅医療、遺伝、栄養など、より時代に即した、また、より来場者の方々に「参加して良かった」と思っただけのような企画を考えました。毎年、ここが来場者の方々にとって「知る・学ぶ・集う」ことの出来る拠り所になりましたら幸いです。

Thanks for Supporting JCF



ジャパンキャンサーフォーラムに携わっていただきましたボランティアをはじめ全ての方々、本当にありがとうございました。皆様の御協力のおかげで開催することができました。引き続き、2019年JCFのご参加をお待ちしております！

寄付返礼品コーナー

今年は、3,000円以上の寄付をしていただいた方に景品抽選コーナーを設け、2日間で50名の方にお立ち寄りいただきました！景品は、シェーバー、マルシェバッグ、Tシャツ、ポロシャツ、本など（※協力：興栄工業株式会社ほか）



ご協力くださった皆様

主催・運営：認定NPO法人キャンサーネットジャパン

後援：厚生労働省、東京都、中央区、国立がん研究センター

協力：株式会社資生堂、LAVENDER RING

共 催	日本がん免疫学会
	一般社団法人くすりの適正使用協議会
	中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会
	一般社団法人日本皮膚悪性腫瘍学会事務局
	スキルズ胃がん患者家族会 認定NPO法人 希望の会
	NPO法人 日本がん・生殖医療学会
	NPO法人婦人科悪性腫瘍研究機構
	NPO法人日本小児がん研究グループ
	久光製薬株式会社
	NPO法人肺がん患者の会ワンステップ
	一般社団法人日本小児血液・がん学会
	NPO法人エンパワリングプレストキャンサー／E-BeC
	国立がん研究センター 希少がんセンター
広 告 協 賛	金原出版株式会社
	中外製薬株式会社
	株式会社コルボ
	バイエル薬品株式会社

広 告 協 賛	株式会社バル・オネスト
	アステラス・アムジェン・バイオファーマ株式会社
	ヤンセンファーマ株式会社
	A2Care 株式会社
ブース出展協力	日本イーライリリー株式会社
	ラボコープ・ジャパン合同会社
	サンスター株式会社
	テルモ株式会社
	ネスレ日本株式会社
	グンゼ株式会社
	株式会社クロエ
	メディカル・データ・ビジョン株式会社
	ソフィアメディ株式会社
	株式会社STSP
	がんロコモ
	リーズンホワイ株式会社
協 賛	一般社団法人MDRT 日本会

開催概要

開催日程：2018年8月11日（土）、12日（日）の2日間

開催会場：国立がん研究センター 築地キャンパス 新研究棟

プログラム数：62（ラベンダーリング、レモネードスタンド含む）

無償でご登壇頂いた講師陣：総勢 105名

ボランティアスタッフ：150名

Looking Back JCF2018〈参加者・ご寄付〉

	JCF2018	JCF2017	JCF2016
参加者数	3,058名	2,006名	2,106名
延べ参加者数	4,707名	4,905名	5,704名
寄付総額	649,830円	489,800円	734,488円
後援団体数	35団体	36団体	51団体

収支報告

Japan Cancer Forum 2018 は、講師・司会・運営ボランティアの皆様が無償でご協力くださったことにより、今年度も開催することができました。

講師・司会・運営ボランティアの皆様へ、この場を借りて御礼申し上げます。

収入の部

項 目	金 額	摘 要
参加費	0	入場料無料
ブース出展費	2,872,800	10社（患者会・支援団体は無料）
プログラム冊子広告	950,400	8社
共催プログラム	3,672,000	13団体
レモネードスタンド紙コップ広告	54,000	1社
寄付	649,830	8/11～8/12 当日寄付
自己資金	1,800,000	
（収入 計）	9,999,030	

支出の部

項 目	金 額	摘 要
1. 事前準備関係費	6,012,328	
（内訳）事前準備関係費	4,586,163	事前準備スタッフ13名（常勤・パート含む）関係費
WEBサイト制作更新費	746,280	特設サイト制作、サーバー、アップデート作業等
フライヤー・ポスター制作費	281,687	フライヤー・ポスター等のデザイン印刷費
事前打合せ	4,098	事前打合せ交通費
通信費	92,900	招聘状発送等
広報費	301,200	広報費
2. 当日運営関係費	2,686,921	
会場費	0	会場費
会場設営費	481,712	ステージやパーティションレンタル、看板、展示設営費等
当日配布物セット	253,569	当日プログラムほか配布物等印刷費
運営関係費	1,913,840	演者スタッフ水・弁当・外部業者委託費、宿泊費、交通費等
演者・司会・ゲスト謝礼	0	無償でのボランティア協力
保険料	37,800	
3. 事後処理費	1,290,925	アンケート集計・報告冊子作成配布・動画作成公開等
4. 雑費	8,856	振込手数料
（支出 計）	9,999,030	



岩瀬 哲（いわせ さとる）
認定NPO法人
キャンサーネットジャパン理事長
埼玉医科大学病院 緩和医療科 教授

今回は国立がん研究センターに協力いただき、2日間、盛会のうちに終了することが出来ました。これもひとえに、ご協力くださった皆様、ご参加くださった皆様のお陰と感謝しております。無償でご登壇くださった98名の講師・司会の皆様、プログラム共催やブース出展、広告協賛等でご支援くださった企業・団体の皆様、準備から当日まで裏方で頑張ってくださいだったボランティアスタッフ150名、そして、JCFにご参加くださった3058名の皆様に心より御礼申し上げます。

JCFは来年6周年を迎えます。8月17日（土）、18日（日）の2日間、国立がん研究センター築地キャンパス新研究棟にて開催を予定しております。ぜひ、皆様お誘いあわせの上、ご来場ください。また来年も、お目にかかれまことを楽しみにしております。よろしく願います。

我々キャンサーネットジャパンは、患者・家族をはじめ、全ての市民に正しい「がん情報」を届けるNPOとして活動しております。そして、年に1度、この「ジャパンキャンサーフォーラム」（JCF）を2014年から開催しています。

理事長からのコメント

会場	研究棟1F			研究棟8F	研究棟13F
時間	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場
11:30	開場 (受付開始)				
12:00-	12:00-12:30 オープニングセッション 「超・入門編」 石黒 めぐみ 先生 東京医科歯科大学大学院	12:00-14:00 がんサバイバーの 声を聴こう! ささまざまながん種の体験談や、 がんとの向き合い方、 現在の活動などを発表! 11名によるサバイバーズトーク を是非お聴きください。	12:00-12:50 難治性がんに向き合う 共催: NPO法人希望の会 朴 成和 先生 国立がん研究センター中央病院		
13:00-14:00	大腸がん 志田 大 先生 国立がん研究センター中央病院		がん・生殖医療 共催: NPO法人婦人科悪性腫瘍研究機構 鈴木 直 先生 聖マリアンナ医科大学	中皮腫 共催: 中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会 岡部 和倫 先生 山崎宇部医療センター	肝臓がん 國土 典宏 先生 国立国際医療研究センター 奥坂 拓志 先生 国立がん研究センター中央病院
14:30-15:30	がん免疫療法 共催: 日本がん免疫学会 河上 裕 先生 慶應義塾大学 北野 滋久 先生 国立がん研究センター中央病院	がん治療とバイオ医薬品 共催: くすりの適正使用協議会 若林 進 先生 杏林大学医学部付属病院 石井 明子 先生 国立医薬品食品衛生研究所	卵巣がん 共催: NPO法人婦人科悪性腫瘍研究機構 田部 宏 先生 国立がん研究センター東病院	皮膚がん 共催: 日本皮膚悪性腫瘍学会 山崎 直也 先生 国立がん研究センター中央病院	胆道がん 國土 典宏 先生 国立国際医療研究センター 奥坂 拓志 先生 国立がん研究センター中央病院
16:00-17:00	がんと就労 高橋 都 先生 国立がん研究センター がん対策情報センター	肺がん 坪井 正博 先生 国立がん研究センター東病院 後藤 悌 先生 国立がん研究センター中央病院	子宮頸がん 共催: NPO法人婦人科悪性腫瘍研究機構 武隈 宗孝 先生 静岡県立静岡がんセンター	膀胱がん 菊地 栄次 先生 慶應義塾大学病院	脳腫瘍 高橋 雅道 先生 国立がん研究センター中央病院
17:30-18:30	もっと知ってほしい がん口コモ! ～運動器症候群～ 共催: 久光製薬 森岡 秀夫 先生 国立病院機構東京医療センター	日々進化する がん治療の エビデンスの中で、 肺がんの治療は どう作られるのか 共催: NPO法人肺がん患者の会 ワンステップ 後藤 悌 先生 国立がん研究センター中央病院 坪井 正博 先生 国立がん研究センター東病院 守田 亮 先生 国立がん研究センター中央病院	子宮体がん 共催: NPO法人婦人科悪性腫瘍研究機構 上田 豊 先生 大阪大学	口腔ケア 百合草 健志 先生 静岡県立静岡がんセンター	甲状腺がん 篠崎 剛 先生 国立がん研究センター東病院

会場	研究棟1F			研究棟8F	研究棟13F	
時間	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第6会場	第7会場
9:30	開場 (受付開始)					
10:00-11:00	乳がん 中村 清吾 先生 昭和大学病院 大野 真司 先生 がん研究会有明病院	胃がん 森田 信司 先生 国立がん研究センター中央病院	リンパ腫・白血病 に対する新薬 伊豆津 宏二 先生 国立がん研究センター中央病院	食道がん 浜本 康夫 先生 慶應義塾大学	10:00-11:30 肉腫(サルコーマ) 少人数ミーティング 川井 章 先生 国立がん研究センター 仲野 兼司 先生 がん研究会有明病院 司会: 押田 輝美 さん 肉腫の会 たんぽぽ	遺伝性腫瘍 少人数ミーティング 田辺 記子 先生 国立がん研究センター中央病院
11:30-12:30		すい臓がん 浜本 康夫 先生 慶應義塾大学	多発性骨髄腫 鈴木 憲史 先生 日本赤十字社医療センター	11:30-12:45 小児がん 共催: 日本小児がん研究グループ 組織球症 塩田 曜子 先生 国立成育医療研究センター 腎腫瘍 越永 従道 先生 日本大学 横紋筋肉腫 宮地 充 先生 京都府立医科大学 12:45-14:00 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップ よりよいサバイバーシップのために 清谷 千賀子 先生 共催: 日本小児血液・がん学会	12:00-13:30 精巣腫瘍 少人数ミーティング 河合 弘二 先生 筑波大学附属病院 司会: 改發 厚 さん 精巣腫瘍患者友の会	肺がん 少人数ミーティング 後藤 悌 先生 国立がん研究センター中央病院 司会: 長谷川 一男 さん 肺がん患者の会 ワンステップ
13:00-14:00	精神腫瘍学 大西 秀樹 先生 埼玉医科大学国際医療センター	緩和ケア 行田 泰明 先生 医療法人社団淳友会 わたクリニック	がんと妊娠 共催: 日本がん・生殖医療学会 古井 辰郎 先生 岐阜大学病院 森亮介 先生 ライフネット生命保険 川井 清考 先生 亀田総合病院 高井 泰 先生 埼玉医科大学総合医療センター			
14:30-15:30	がんゲノム医療 間野 博行 先生 国立がん研究センター 研究所 座長: 藤原 康弘 先生 国立がん研究センター中央病院	乳房再建 共催: NPO法人E-BeC 小宮 貴子 先生 東京医科大学	前立腺がん 赤倉 功一郎 先生 JCHO 東京新宿メディカルセンター	腎がん 近藤 恒徳 先生 東京女子医科大学東医療センター	14:00-15:30 婦人科がん 少人数ミーティング 勝俣 範之 先生 日本医科大学武蔵小杉病院	男性乳がん 少人数ミーティング 沢田 晃暢 先生 昭和大学病院
16:00-17:00	がんゲノム教育 田村 研治 先生 国立がん研究センター中央病院	治療抵抗性となった 患者家族への話 小澤 竹俊 先生 めぐみ在宅クリニック	16:00-17:00 がんと栄養のこと 井田 智 先生 がん研究会有明病院 17:00-18:00 食事で がんを予防するには 小西 敏郎 先生 東京医療保健大学	希少がん・より良い医療のために 共催: 国立がん研究センター 希少がんセンター 西田 俊朗 先生 国立がん研究センター中央病院 川井 章 先生 国立がん研究センター中央病院 吉田 朗彦 先生 国立がん研究センター中央病院	16:00-17:30 若年性乳がん 患者の治療と 妊娠性の問題 少人数ミーティング 北野 敦子 先生 聖路加国際大学 司会: 御船 美絵 さん 若年性乳がんサポート コミュニティ Pink Ring	原発不明がん 少人数ミーティング 勝俣 範之 先生 日本医科大学武蔵小杉病院
17:00-	17:15-18:00 がん哲学外来 植野 興夫 先生 順天堂大学	17:10-18:10 漢方と補完代替療法 上園 保仁 先生 国立がん研究センター 研究所 大野 智 先生 大阪大学大学院				
18:00-18:30	クロージングセッション 藤原 康弘 先生 国立がん研究センター中央病院 後藤 悌 先生 国立がん研究センター中央病院 司会: 橋本 佐与子 さん MBS 毎日放送					

1Fのラウンジ
「ミニステージ」では、

- 大妻女子大学 川口美喜子先生による「食事レシピ紹介」
 - NPO 法人がん暮らしを考える会による「障害年金」「固定費を下げる方法」ミニレクチャー
- など、がん患者さん・家族に有益な情報をお届けしました。

がん治療の進歩により、がんと共に生きる時代になってきています。しかし、世間の多くの方のがんに対するイメージは「がん＝不治の病」のままであり、がん患者に対する偏見も未だ存在します。「がんになってもイキイキと暮らしている人がたくさんいることを知ってもらい、がんになったら何もできないのでは？というイメージを変えたい」そんながんサバイバーたちの想いから、昨年のJCFでスタートしたがんサバイバーのメイクアップ＆フォトプログラム。昨年のメンバーた

ちが「ラベンダーリング」というプロジェクトを立ち上げ、MAKE UP & PHOTOS WITH SMILES supported by SHISEIDO のプログラムを開催し、2日間で41名のがんサバイバーを撮影しました。

*「ラベンダーリング」は、がんになっても笑顔で生活できる社会の実現を目指して、さまざまな活動を有志によって運営するプロジェクトです。

参加者からは、「メイクアップ、写真撮影、タイトル作り、インタビュー。プロフェッショ

ナルで、優しく温かなスタッフの皆様を支えていただきながら、このイベントに参加させていただけたことに心から感謝の気持ちでいっぱいです。」「何度思い返しても夢のようなひとときでした。」「この経験を通じてこれからも前向きに生きていかなきゃ！と背中を押していただきました。この企画がいつまでも続き、多くのサバイバーを勇気づけてくださることを心より願っています。」などの感想が寄せられました。



ミニステージ

ミニステージでは、川口美喜子先生による「がん患者のための栄養と食事～治療中の方、必見！レシピ紹介～」や、NPO 法人がんと暮らしを考える会の石田 周平さん、黒田ちはるさんによるがんと家計「がん患者の障害年金を学ぶ」「収入が低下したがん患者の固定費を下げる方法」

のミニレクチャー、山崎多賀子さんと資生堂の澤田保子さんによるトークショー「アピランスケア～がんと心と外見のはなし」、NPO 法人がんノートのライブ配信、ミニステージ司会の Ayami さんのミニヴォイス・トレーニング、各ブース紹介などを開催しました！



司会：Ayami（BEC 乳がん体験者コーディネーター 12 期生）

ちょうどがんサバイバー3年目に差し掛かる8月に、ミニステージの総合司会として参加させて頂いた JCF。様々な視点からがん患者の事を思う先生方の講座、そして各ブース紹介では、司会をしながらずっと胸が熱くなりっぱなしだった。個人、法人など立場や専門は違えど、参加者すべてに共通していたのは「確かな希望をもって『がん』に向き合っている」こと。それが自ずと『同志』を感じ



させる。大げさではなく、「がんになっても自分らしく生きる」ことの尊さを学んだ2日間となった。引き続き、がんサバイバーとしての私に出来ることを模索し、誰かの役に立てる事を願って。最後になりましたが、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

小児がん・AYA がん支援のレモネードスタンド

今年も都立国際高校の有志がボランティアでレモネードスタンドを手伝ってくれました。都立国際高校の皆様には、毎年、世代交代をしながら手伝いに来てくれています。

また、今年も“みんなのレモネードの会”会長の榮島四郎くんや、少年・少女のボランティアの子供たちが「レモネードいかがですかー!？」と大きな声を出し会場を練り歩いてくれました。2日間で約800杯を配布し、161,658円の寄付が集まりました！ありがとうございました！

※紙コップ提供：メディカル・データ・ビジョン株式会社



第1会場

日本で始まるがんのゲノム医療



昨今、大変注目されているゲノム医療について、今回は国立がん研究センター研究所長の間野博行先生と国立がん研究センター中央病院の田村研治先生にご講演いただきました。

間野先生には遺伝子とはなにか、遺伝子疾患と遺伝病についてわかりやすく

お話しいただいたほか、ゲノムの解析方法（がん遺伝子パネルシークエンス）について、海外と日本のゲノム医療の体制と今後の日本におけるパネル検査と全ゲノム解析についてわかりやすくご講演いただきました。参加された方からは「貴重なお話とても勉強になり、希望になりました」、「大変わかりやすい説明で素晴らしい講演でした」など、感想をいただきました。

がんゲノム教育

田村先生からはがんゲノム医療やゲノム情報をどのように伝えていくか、日頃の患者さんからの疑問や、分子標的薬についての説明を交え最新のデータをもとにお話しいただいたほか、日本癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会と共に「がんゲノムネット」というコン

テンツを作成して情報を発信していく予定との今後の予定についてもお話しいただきました。参加された方からは「ゲノム医療が段階を踏んで適切に国民皆保険の主旨に合うように国民に利するものになって頂ければと思います。（なるように患者も心がけます）」、「ゲノム医療について、基礎的なことが大変よくわかったのでも意義でした」など、感想をいただきました。



がん免疫療法の進歩

日本がん免疫学会との共催で開催され、日本がん免疫学会理事長で慶應義塾大学教授の河上裕先生と、国立がん研究センター中央病院の北野滋久先生が講演されました。河上先生からは、免疫療法が第4の治療法と言われるまでになっ



た歴史とそのメカニズム、バイオマーカーでどの遺伝子に効果があるかなどの研究が進められていることなどをお話いただきました。また、北野先生からは、現在保険で承認されている疾患の紹介と、特徴的な副作用について、その出方も人によって異なり多岐に渡るため、特に注意すべき点などについてお話いただきました。そして免疫チェックポイント阻害薬の治療では、全身の臓器に関係してくるため、今まで以上にチーム医療が大切とお話もされました。

乳がん



乳がんの初期治療と再発・転移の治療について、昭和大学の中村清吾先生と、がん研有明病院の大野真司先生にご講演いただきました。中村先生は、乳がんの概要から、乳がんの遺伝子により早期に見ても転移をおこしやすいものと、そうでないものがあるこ

とがわかってきているということや、今年の ASCO で発表されたホルモン陽性、HER2 陰性の患者さんへの臨床試験の結果などが報告され、患者も個々の価値観、人生観によって治療の選択肢が異なり、効果や副作用を予測する検査の必要性などについてもふれられました。大野先生からは、再発・転移乳がんに対する薬物療法についてご講演いただきました。近年、新たな薬剤が承認され、薬物が増えることで予後も上がっているという話をされたあと、がんのサブタイプごとの最新の治療について細かくご説明いただきました。

クロージングセッション

今年のクロージングセッションは、国立がん研究センター中央病院副院長の藤原康弘先生より「今後のがん治療の展望」についてご講演いただきました。新薬の情報として、米国 FDA の Breakthrough Therapy 認証を受けたものが数年以内に市場に出てくる話や、厚労省の日本の先駆け審査指定制度のサイトの案内をする一方で、「新しいものが良いとは限らない、早く承認されても、その後承認を取り消される場合もあるが、日本では承認取り消しの話はあまり報道されない」ということもおっしゃっていました。また、今後診療の中で IT 活用は益々増えることや、ゲノム医療が今回の JCF のテーマとして取り上げられたが、最も大切なのは、その結果に基づきどんな診療を受けるかということ、検査結果が出て有効な治療にたどり着けるのは 20% 以内という現状についても知っておいてほしいとおっしゃいました。最後に今後新薬が次々と承認されていった場合、日本の



人口が減っているなか、数千万という薬を国民皆保険で支えられるのかという問題についても述べられました。パネルディスカッションでは、MBS 毎日放送の橋本佐与子さんの司会で、国立がん研究センター中央病院の後藤悌先生、肺がん患者会ワンステップ代表の長谷川一男さん、CNJ の理事長の岩瀬哲も加わり、今年の JCF を振り返り、来年も患者さんが集い学ぶ場としてジャパンキャンサーフォーラムの開催を宣言して終了しました。



第2会場

緩和ケア



第2会場で開催した緩和ケアセッションでは、4年前に食道がんの治療を受けられた緩和ケア医の行田泰明先生を迎え、「緩和ケア～がん経験者となって知る緩和ケアの本質～」の講演をいただきました。がん患者の療養の場は、より良い緩和ケアが受けられるように柔軟に選択していくことが大切で、「在宅での緩和ケア」と「入院での緩和ケア」について、それぞれの特徴などを、実例を交えて分かりやすくお話しいただきました。



がんサバイバーの声を聴こう！(OCT/BEC)



がん患者とその家族、遺族、ケアをする人、友人など、広くがんに関係のある人々(=がんサバイバー)が自分の体験を語ることによって、日本のがんに関する課題を明らかにし、「がん患者を含む国民が、がんを知り、がんに向き合い、がんに負けることのない社会」の実現を目指そうというプロジェクト。CNJはがんサバイバー対象のスピーキングセミナー開催と、実際に体験談を語ることへの支援を行っています。今回は、5月に開催した第5回セミナーに参加したサバイバーの皆さんが、自らの体験から得た様々な思い・提言を発表しました。

第3会場

がんと栄養のこと

井田智先生(がん研究会有明病院)のご講演は「がんと栄養のこと」。参加者は定員をはるかに上回りました。「食事は毎日のことなので、どのようにしたら、何に気を付けたらよいか日々悩んでいるので参加した」というご家族をはじめ、患者さんや医療関係者の姿も。なぜ、がんになるのか？ 発がんリスクを上げる食事・下げる食事、そして、なぜ、がんになると体重が落ちるのか等、具体的に分かりやすくお話しいただいた内容は大変好評でした。



第4会場

希少がん

希少がんは数が少ないがゆえに、診療上さまざまな困難を抱えています。希少がんに対して、正確な診断に基づいた適切な医療がなされるために、そして、新たな有効な治療法を開発してゆくために、どのような課題を克服する必要があるのか、皆で一緒に考えました。

参加者からは「東京と地方で治療に差が出ないように仕組みを作っていたほしい。」「最前線で活躍されている先生の生のお話を伺って良かった。診断が完全ではないことを謙虚にお話しされていたのが印象的でした。均てん化、集約化のディスカッションは正解が無いのか考えさせられた。」など感想が寄せられました。



第5会場

肝臓がん

肝臓がんプログラムでは「肝細胞がん」について外科領域の国立国際医療研究センター國土典弘先生より「日本の技術は世界一！」と評されている肝切除や肝移植を中心に又、内科領域においては国立がん研究センター中央病院奥坂拓志先生よりラジオ波焼灼術や薬物療法などについて詳しくご講演いただきました。患者の多くはがんだけでなく慢性的な肝臓の疾患も抱えている為、進行の程度や肝臓の障害の度合いも考慮して治療法を選択する事が大切な事や患者に少しでも希望の光を与える事になるかも知れない臨床試験の事まで盛沢山な情報が



詰まったプログラムとなりました。また質疑応答の時間も幅広い内容の質問が寄せられ参加者から有意義な時間が過ごせたとの声を戴きました。

第6・7会場

メンズBC

女性の患者数の1%に満たない男性乳がんの患者に正しい情報を届けるために、この会が始まりました。JCFでは、昭和大学病院 沢田晃暢先生にご講演いただいた後、質問に丁寧に答えていただきました。「男性乳がん患者の悩みを直接聞けて勉強になった」「勇気の湧く会です。主治医と積極的な意見交換も出来そうです」など、喜びの声をいただきました。



メディカル・データ・ビジョン株式会社

WEB サイトにてブースでのアンケート結果を公開
<https://portal.medilog.jp/entries/2018-08-15-00/>

MDV の展示ブースでは、その前を通り掛かった人に、「診療情報は誰のもの？」という質問をして、パネルに赤いシールを貼ってもらいました。人によっては、迷わずに「自分のもの」を選んだ人もいましたが、「自分のものだけど、自分のかかっている医師のいる病院のものでもある」「治療薬の研究も必要だから、自分だけのものではないな」などと話しながら、「両者のもの」に貼る人が多数でした。中には、「全人類のもの」という人もいて、ボードの上部の枠外に貼っていた人もいました。



株式会社 STSP (カマエイド)

ジャパンキャンサーフォーラムでは大変お世話になりました。3,000 名を超える来場者であったとお伺いし、驚き入っております。運営にあたられたボランティアの方も、親切なばかりで大変お世話になりました。ご苦労も多かったことと存じます。お疲れ様でございました。弊社も初めての出展でしたが、たくさんの患者さんやご家族の方にご興味をお持ちいただき、大変嬉しく感じました。「知らなかった」「もっと早く知りたかった」と言ったお声が一番多かったように感じます。また、お食事の悩みをお聞かせ頂く来場者様も多くいらっしゃり、味覚障害や少量しか食べられないと言ったお声も多数ございました。レシピ BOOK も 500 冊ほど配布させていただき、男女問わずご興味を持って頂いたように感じました。



くすりの適性使用協議会

WEB サイトにて JCF での共催セッションとブースのレポートを公開
<https://rad-ar.or.jp/blog/2018/08/1748/>

2 日間にわたりブース出展を行い、300 人を超える患者・家族、医療関係者の方々にお立ち寄りいただき、参加していた 50 を超える患者団体などにも、当委員会を中心とした協議会の活動を紹介しました。今回、協議会としては初めての参加でしたが、患者・家族の方から「分子標的薬という言葉は聞いたことはあるが、バイオ医薬品という言葉は聞いたことがなかった。」など、今後の活動に参考となる多くの生の声を聴くことができました。



がんフォト*がんストーリー

今回、初めて出展者として参加しました。これまで様々な立場で JCF に関わってきましたが、今年はこれまでに以上に、患者会・支援団体・ご来場者が深く繋がるようなものだった気がします。通常、患者は「支えられる」、医療者・患者会・支援団体は「支える」と思われがちですが、実は、お互いに学び合い、支え合っているのだと思います。それがお互いの原動力になり、未来に繋がっていくような、そんな温かさが感じられる 2 日間でした。そして、とても楽しかったです。ありがとうございました！



TEAM ACC

このイベントはボクの中で間違いなく一番大切なイベントでこちらも肝入りで準備させていただいております。ボクはブログを通じていろいろな方と繋がっているのですが、2016 年に Nicotto <ニコット>としてブースを出展した時からボクを訪ねて多くの方が足を運んでくれました。そこから TEAM ACC を立ち上げ 2 年連続でブースを出させていただきましたが、このイベントがボクと仲間がリアルに交流するパイプとなっています。今年も何人ものブログの読者さんが来てくださいました。「実物の Hama さんに会えた」「本当に実在しているんですね」などと言いながら泣き出す方もいたりします(ボク、生きてます!笑)。ボクも思えば 2015 年の ACF(アキバキャンサーフォーラム)にマッスル清水さんを訪ねて声を掛けたことが原点かも知れません。リアルに繋がるためには必要なんです、このイベントが!

そんな理由から本当にジャパンキャンサーフォーラムを大切に思っています。来年も開催が決定したと聞き今から予定を入れておきました。ボクも現状がんが肺に 20 個以上転移してきて来年はどうなっているのかわかりませんが目標と希望は捨てずに頑張ろうと思います。



ソフィアメディ株式会社

血管年齢、体組成、骨密度を測定し、健康相談をしました。2日間でなんと400人以上の方がブースにお越し下さいました！皆様、測定結果に喜んだり、残念がったりしながら、健康相談では熱心に色々質問されていました。毎年、このフォーラムに参加している方からは「測定会は今年からですか？来年もまたお願いします。結果が良くなるように食生活を改善して、運動も頑張ります！」と測定をして良かったというお声も頂きました。



がんロコモ

今回は、ロコモチャレンジ！推進協議会の本年度のテーマである「がんロコモ（がんとロコモティブシンドローム）」の啓発活動として、整形外科専門医、緩和ケア認定看護師、理学療法士、作業療法士ら、7名のボランティアスタッフとともにブース出展しました。医療従事者が主体の学会とは異なり、患者さんやご家族の生の声を聞くことが出来、普段の忙しい日常診療の現場では感じることができない、率直な思いに触れることが出来ました。「骨転移してから、どの先生にも診て頂けなくて不安です。骨転移って、整形外科の先生が診て下さるのですか？」「がんになって動けなくなっていく妻を介護しています。がんを治すことはできなくても、何か少しでも妻を笑顔に出来ることはないかと思って来ました」がんや転移といった言葉は、通常の医療行為に大きな先入観を与えますが、生活支援を含めてチーム医療で取り組み、患者さんやご家族の痛みや不安の解決を目指しながら、がんを治すことだけではなく、がんであっても「動ける」「生活できる」ことを一緒に考えることが求められていると実感しました。いまや、2人に1人ががんになり、がんとともに生きる時代です。がんロコモが進行すると、介護が必要となるばかりでなく、がん治療の継続すら困難になります。がん患者さんの痛みが、①がん自体による運動器の痛みか、②がん治療による運動器の痛みか、③がんに伴存する運動器疾患による痛みかを見分け、骨折や麻痺を予防・治療し、がん患者の移動能力を改善することを、運動器の専門家である整形外科と一緒にチームで解決出来ることを願っています。最後になりましたが、フォーラム開催にあたりご尽力いただいた関係各位に、かけがえのない時間と場所を共有させていただきましたこと、深く御礼申し上げます。



株式会社 TOKIMEKU JAPAN

オリジナルケア介護用品 BRAND
「KISS MY LIFE」の展示



日本イーライリリー株式会社

「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス」の
作品を展示
<https://www.locj.jp/>



グンゼ株式会社

セルフケアを支援できる
商品などを紹介

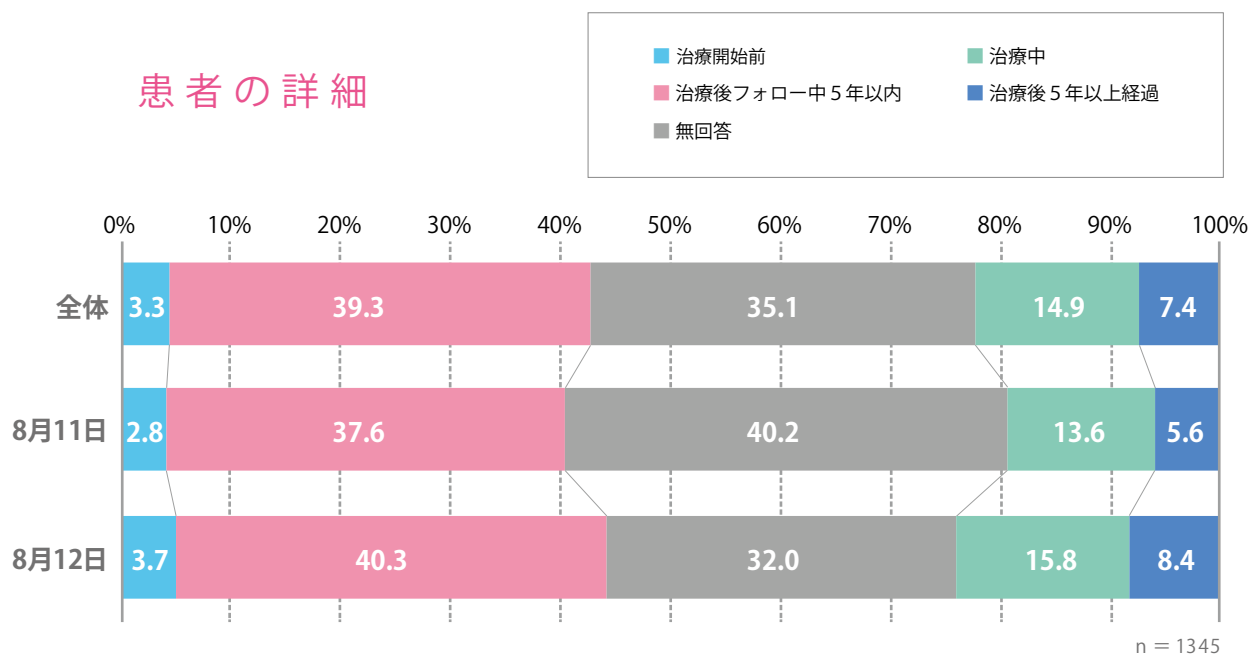


グンゼ株式会社／株式会社クロエ（オンコロ）／株式会社 STSP（カマエイド）／サンスター株式会社／みんなのレモネードの会／NPO 法人肺がん患者の会ワンステップ／TEAM ACC／がんフォト＊がんストーリー／頭頸部がん患者と家族の会 Nicotto／若年性乳がんサポートコミュニティ PinkRing／NPO 法人 GISTERS／ロコモ チャレンジ！推進協議会／一般社団法人 くすりの適正使用協議会／認定 NPO 法人ジャパンハート／腎がん患者と家族の会 そらまめの会／リボンスケア umi と仲間たち／テルモ株式会社／ネスレ日本株式会社 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー／メディカル・データ・ビジョン株式会社／株式会社 TOKIMEKU JAPAN／ソフィアメディ株式会社／ラボコープ・ジャパン合同会社／日本イーライリリー株式会社／リーズンホワイ株式会社／肉腫（サルコーマ）の会 たんばば／みんなであつなげる乳がん患者会 A S H A R E／リンパカフェ／リンパ浮腫サポートネットワーク〜／ドヤフェス実行委員会／旭くんのプロジェクト× JCCG／NPO 法人ピンクリボン大阪／一般社団法人キャンサーペアレンツ／公益財団法人メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン／NPO 法人がんと暮らしを考える会／メラノーマ患者会 OverTheRainbow／一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン／一般社団法人ピアリング（合同出展 ガーゼ帽子を縫う会）／NPO 法人日本キャリア開発協会／主治医に言うほどではないけどなんか、モヤモヤ〜な方、集まりませんか？の会／一般社団法人 Team CML @Japan／神奈川骨髄移植を考える会／ジャパンフォーリブストロング／公益財団法人日本対がん協会／NPO 法人こどものちから／NPO 法人エンパワリング プレストキャンサー E-BeC／精巣腫瘍患者友の会 J-TAG／NPO 法人がんノート／NPO 法人脳腫瘍ネットワーク／NPO 法人腺友倶楽部／株式会社メディコン／株式会社東京義髪整形／よつばの会／BEC・CIN 同窓会デスク（キャンサーネットジャパン養成講座）

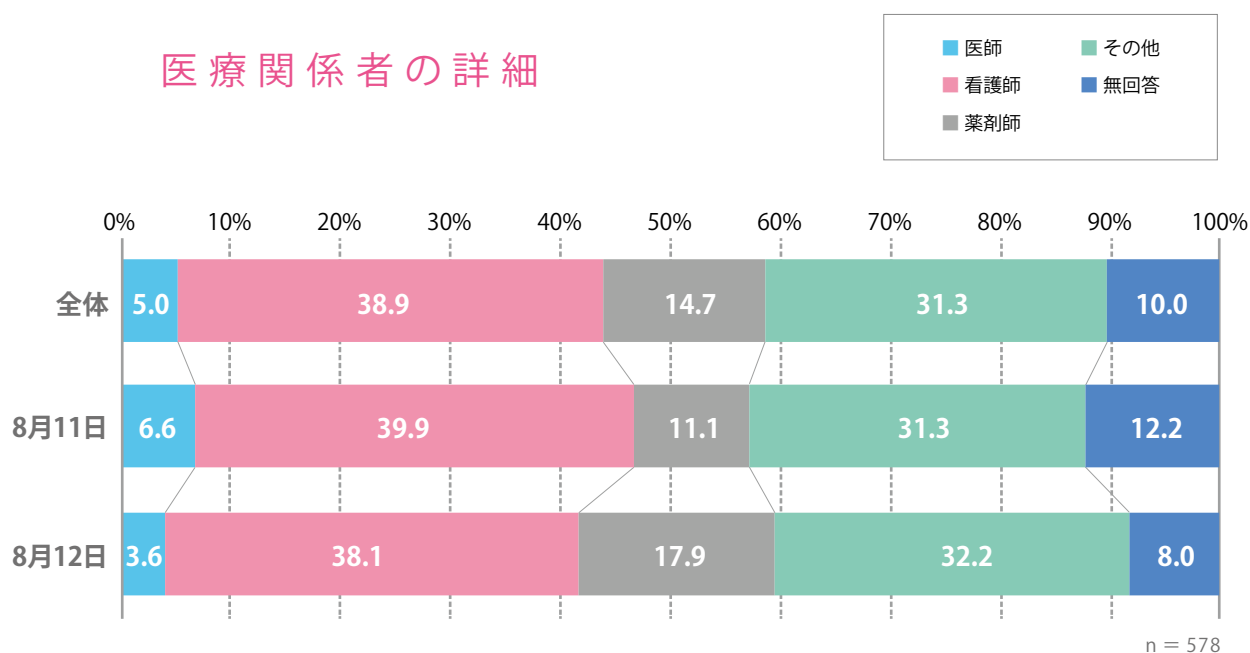
大腸がんが見つかったばかりです。前向きに生きていきたいので参加しました。新しく生まれかわった気持ちで、いきいきと生きていく。あと、自分ができることを見つけるきっかけになると思います。ありがとうございました。

仕事と治療の両立は、どの企業でも自分事として考える必要があるテーマだと思います。実際には、何をどのように伝え、進めることが必要か、よくわからない場面もあり、コーディネーター等の活用も必要かもしれません。

患者の詳細



医療関係者の詳細



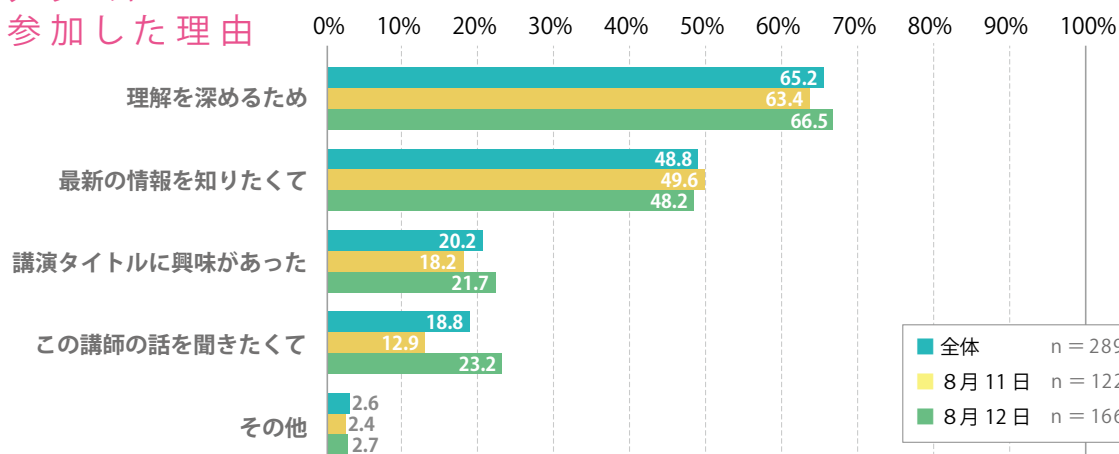
毎年、乳がんのセミナーは参加者が多く座席数が足りないので、もっと大きな会場か別室で中継が見られるようにしていただけると有難いです。

「がんサバイバーの声」というスピーチを取らせていただきました。本当に感心しました。私は医療従事者なのに、逆に患者に支えられて、ころがいっぱいになりました。また、スピーチを通して、将来、患者および家族たちにどのようにサポートすべきか、何をわれわれ医療従事者が注意すべきかと分かりました。本当に感謝いたします。また、「大腸がん」というスピーチも聞けて、素晴らしい演説でとてもいい勉強になりました。

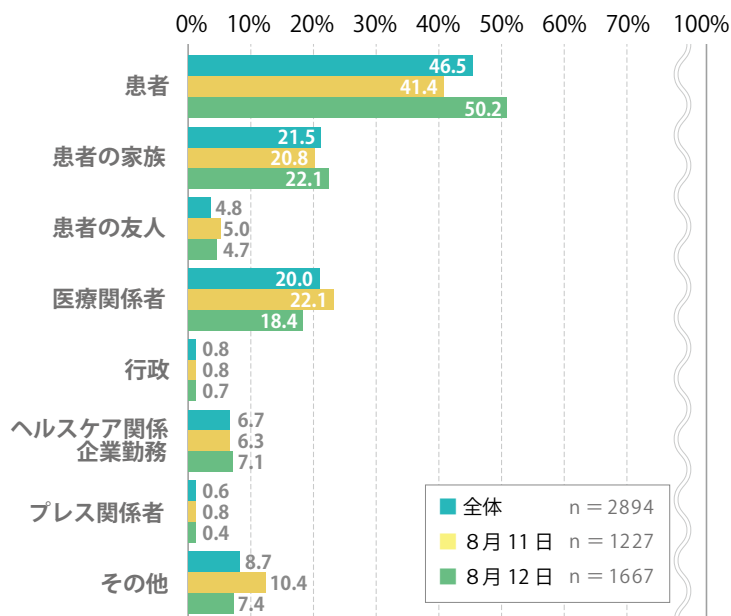
初めて参加させていただきましたが、大変ためになりました。リンパ浮腫のプログラムもあれば良かったと思います。ぜひ次回は追加をご検討下さい。

参加できないプログラムがあるため、追ってビデオで見られると嬉しいです。

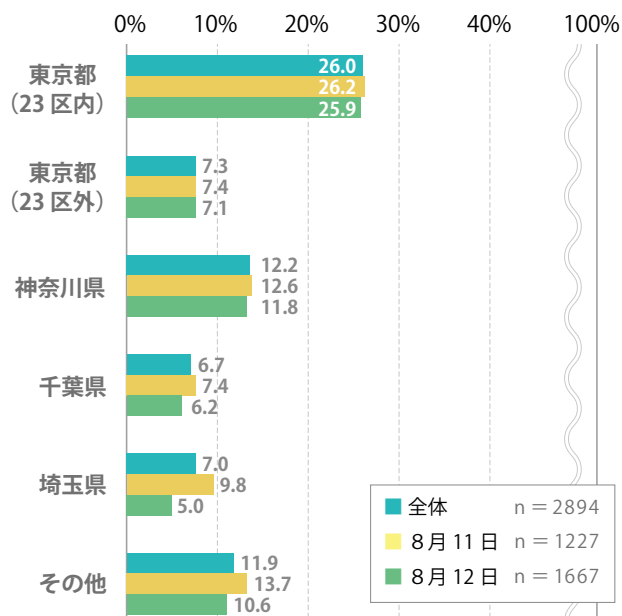
プログラムに参加した理由



あなたの立場（複数回答）



セミナー参加者の居住地域



みんなで知ろう! がんのこと



2019年
開催決定!

ジャパンキャンサーフォーラム

2019年

1日目

8月

17日 土

2日目

18日 日

国立がん研究センター 築地キャンパス 新研究棟

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

<https://www.japancancerforum.jp>



2019年度 ジャパンキャンサーフォーラム協賛募集中!

セッション共催

JCFのセッション(1コマ60分~)を共催。テーマ・座長・演者等、CNJと共に企画から作ることが出来ます。ウェブサイト上のプログラム、プログラム冊子に共催セッションである旨を明記いたします。また、第1~3会場の共催では、当日のセッションの様子を撮影、編集の後データ納品(URLにて共有)致しますので、CNJウェブサイト・キャンサーチャンネルウェブサイト上で公開するほか、ウェブサイト上より公開・配信してより多くの方に見ていただくことが出来ます。

寄付返礼品特別協賛

JCF2019で寄付者を対象に、ミニステージで抽選を行います。抽選の賞品(寄付返礼品)を募集しています。

寄付

JCF2019の開催準備および運営費用に対する寄付。認定NPO法人ですので、ご寄付いただくと税制控除を受けられます。

企業展示

会場1階ラウンジを中心としたブース展示。プログラムと次のプログラムの間に毎回30分間の休憩を挟む予定ですので、多くの方で賑わうことが予測されます。貴団体のサービス、商品、イベント等をPR出来ます。

バナー広告

JCF2019公式ウェブサイト上へのバナー広告。

プログラム冊子広告

JCF2019当日来場者およびCNJ支援者に配布するプログラム冊子への広告。

資料・サンプル配布

資料、サンプル等を来場者に配布。

お問い合わせ先

認定NPO法人キャンサーネットジャパン「JCF2019」担当宛
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水K&Kビル2F

TEL: 03-5840-6072 FAX: 03-5840-6073 <https://www.japancancerforum.jp/contact>